

国際だより

平成26年6月10日

国際教育部発行

2014 vol.3

3年国際文化コース 田植え実習(5月14日5・6限)

3年5組(国際文化コース)では、総合学習「日本文化」の授業で田植えを経験しました。事前に、苗の植え方や田んぼでの動き方のポイントを学んでから、実習に取り組みました。多くの生徒にとって、田植えは初めての経験だったので、田んぼ内に引かれた線に沿って、等間隔に苗を植えることはかなり難しかったようです。しかし、国際文化コースならではの日本文化体験ができ、貴重な実習となりました。



生徒の感想



今日、人生で初めて田植えを経験して、その大変さがわかりました。田んぼの中から足を出すのがとても大変で、苗をまっすぐ植えるのが難しかったです。私たちが毎日食べているお米作りが経験出来て良かったです。日本人は昔からこのようにしてお米を食べてきたのかと考えると、本当にすごいなと思いました。日本人として、日本文化の田植えが経験できる高校生はあまりいないと思うし、貴重な経験ができてとても良かったです。私たちが植えた苗がちゃんと成長するかどうか楽しみです。今日は本当にありがとうございました。

上原かすみ(城南中出身)

1番難しかったのは、途中から田んぼに引かれた線が見えなくなって、まっすぐ植えることができなくなったことです。最初はスピードも遅かったけど、やっているうちにどんどんコツがわかってきて最初よりも早くできました。終わってから、田植えは日本文化において、重要な役割を果たしてきたのだと改めて感じました。私は国際文化コースのクラスでよかったと思うし、椋本さん(田んぼの所有者)が、私たちのために教えてくれたのは、本当にありがたいです。自分が植えた苗が育つのがすごく楽しみです。学校帰りに田んぼがこれからどう成長するか見て帰ろうと思います。残りの高校生活ももっと日本文化のことを知りたくなったり、周りの人に教えてあげたいです。そして今日のことも忘れずに他のことに生かしていけたらいいなと思います。こんなことができるのは、東高だけだし、本当にいい経験ができました！椋本さん、今日は本当にありがとうございました。

東 菜樹(白糸中出身)

田植えは、毎年家でやっていたけど、素足でやるのは初めてだったのでとても新鮮でした。手植えは、機械では植えられない端っこや、歯抜けの部分くらいしかしたことがなかったけれど、今回のように全面手植えでやってみると、あれだけ多くの人数がいたにもかかわらず時間がかかったし、結構大変だったので驚きました。昔は、村中の人に来て田んぼを手伝ったと聞いていたけど、その理由がわかりました。田植えは、昔から大切な日本の行事なのだとわかりました。今日はありがとうございました。

内海 俊明(若浦中出身)

今回は国語科の川勝清隆先生からです。



全校生徒対象 国際教育のための講演会

「～αステーションのスタジオから～佐藤流異文化コミュニケーション・パート3」

& 2年4組国際文化コース特別講義(日米商業比較)



6月5日5・6限目に、エフエム京都α-STATIONの人気DJ佐藤弘樹さんに、異文化コミュニケーションについてお話をいただきました。7時間目には2年4組国際文化コース特別授業にて、生徒が作成した英語での商業発表を、佐藤さんより講評をいただきました。



お知らせ

① 東高英語キャンプ

日時:6月14日(土)
集合:9時50分視聴覚教室
(10時から開講式)
持ち物:辞書・お茶・タオル・エプロン

英語を上達させる秘訣は、恥ずかしがらないでたくさん使うことです!うまく言えなくても、No problem! ゲームや料理、それにshoppingをしながら、いっぱい話しましょう。国際文化コースの卒業生も参加します。

② 第51回全国国際教育研究大会出場決定

2年4組荒木碧海(和田中出身)
2年5組坂口瑠依(青葉中出身)

第51回全国国際教育研究大会福井大会(平成26年8月7日~8日開催)にて、「国際理解・国際協力に関する生徒研究発表」の部に、出場内定をいただきました。発表の内容は、1月KAKEHASHIプロジェクトにて渡米した際に行った舞鶴引揚記念館のユネスコの登録署名活動についてです。

③ 2年国際文化コース(2-4) 9月 JICA 訪問決定

平成26年度、JICA関西(国際協力事業団・神戸市)での校外1日研修実施校に、本校が選抜されました。2学期、9月10日、JICA関西にて、日本の国際貢献についての講義、途上国からの研修員との交流会、エスニック料理や民族衣装体験等、様々な活動を通して、異文化理解・国際貢献について理解を深めます。

異文化の風 このコーナーでは様々な国や地域の文化についての情報をお届けします。

中国の大学で

私は10年あまり前、中国陝西省の西安外国語大学で日本語を教えていました。早朝から大学の中の公園で、専攻の外国語を一生懸命、ものすごい集中力で、大きな声を出し勉強していたことを思い出します。特に1年生の日本語はたどたどしくてかわいらしく聞こえました。語学の勉強は、四六時中没頭すること、そして耳から学ぶことが大切にされていると実感しました。/それぞれのクラスには「主席」(中国っぽいですね)がいます。まとめ役と同時に、規律を守らせる役割を担っています。おかげさまで私は叱られませんでした。とにかく組織力は抜群です。/また中国には〇〇節とあって、年中行事がいくつもあります。特に名月をめぐる「中秋節」と、先生を敬う日の「教師節」のときは、授業に行くときと教卓の上に果物、お菓子(「中秋節」には高カロリーの「月餅」)、飲み物がたくさん置いてあり、何事かと驚きます。学生一人一人が持ち寄ってくれたそうです。もちろん、授業のあと、クラスみんなでわけあい楽しくいただきます。/建前・面子重視の中国と言われますが、学びの場という身近なところの習慣や文化などにも、自分たちが見過ごしているものがあるように思いました。

「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。



次回の「国際だより」は、7月10日頃に発行する予定です。